

指定管理者評価シート

事業名	青少年科学館等運営管理業務	所管課(電話番号)	教育委員会生涯学習部生涯学習推進課(211-3871)
------------	---------------	------------------	-----------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市青少年科学館	所在地	厚別区厚別中央1条5丁目2-20
開設時期	昭和56年10月(平成9年3月第2期整備)	延床面積	10,017㎡
目的	科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通じて創造性豊かな青少年の育成を図る。		
事業概要	① 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示。 ② プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発。 ③ 科学に関する図書その他の資料等の収集・配布及び提供。 ④ 科学及び天文に関する実習・実験及び講習会等の開催。 ⑤ 科学館が収集し、又は展示する資料、装置等に関する調査研究及び他機関との協力。		
主要施設	札幌市青少年科学館、札幌市天文台		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市生涯学習振興財団		
指定期間	平成26年4月1日～平成30年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由： ・ 学校教育との連携や生涯学習施策の推進の観点から、施設における事業運営にあたり、札幌市と指定管理者が一体的に取組み、札幌市が積極的な関与を行う必要があるため。 ・ 科学館の管理運営を平成11年度から継続的に担っており、十分な経験とノウハウ、専門の人材等を有しているため。		
指定単位	施設数：1 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	① 総括管理業務 ② 施設・設備等の維持管理に関する業務 ③ 事業の計画及び実施に関する業務 ④ 施設の利用等に関する業務 ⑤ 前4業務に付随する業務		
3 評価単位	施設数：1 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

II 平成28年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価		
1 業務の要求水準達成度					
(1) 統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 科学及び科学技術に関する知識の普及啓発を通して、創造性豊かな青少年を育てるという理念のもと、「科学を育てるまちづくり」という方針を策定した。	これまでの運営経験や培われたノウハウやネットワークを活かし、高度な学習機会を提供することができた。	A B C D 施設設置目的に合致した基本方針を策定し、管理運営に努めているとともに、学習機会の提供に向け尽力しており評価する。		
	▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 不当な差別的取扱いをしないため、市民からの意見や要望を聞く姿勢を常に持つとともに、札幌市青少年科学館条例や施行規則を遵守し、観覧料の減免等についても適正に取扱った。			条例・規則等を遵守し、市民意見の聴取や適切な広報を通して、団体・一般客の平等利用に努めた。	平等利用の確保に向け、市民の意見を取り入れるとともに、自ら発信することに努めており、評価する。
	▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 ▼ 電気、ガス、水道の使用については、空調設備及び電気設備業者と連携を取り、より良い節約方法を模索し、実施した。 ▼ 廃棄物については、できる限り細分化し、分別してから廃棄した。			環境局と連携をとり、空調調整や「見える化システム」の運用などにより、効率的なエネルギー運用ができる環境整備に努めた。	

<p>▼ 「環境科学展」の開催や展示物により、省エネ・環境配慮に関する情報を提供することで、市民への興味関心を喚起し、市民へのPRに努めた。また、ペレットストーブの展示により、CO2削減への仕組みや取組みについて市民へのPRに努めた。</p> <p>▼ 省エネ・環境への興味関心を喚起するため、太陽光パネルの発電量を表示するための展示物を設置している。</p>	<p>「環境科学展」の開催や、展示室内に太陽光パネルの発電量を示すモニターなどにより、市民へ省エネ・環境配慮に関する取組みを周知することができた。</p>	<p>市民へ環境に関する情報提供をするなど環境保全の推進に取り組んでおり、評価する。</p>								
<p>▽ 管理運営組織の確立（責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成）</p> <p>▼ 業務分担、指揮命令系統、連絡系統を定めた。</p> <p>▼ 館長1名、課長2名、係長4名を配置した。</p> <p>▼ 充実したサービスを提供できるよう、適宜嘱託職員・アルバイト職員等の採用を行った。</p> <p>▼ 定期的に財団職員会議を行い、様々な問題について協議し、職員間で情報の共有をすることで、充実したサービスの提供に努めた。</p> <p>▼ 人材育成のため、外部講師を招いて研修を実施するとともに、外部研修等に参加した。</p> <p>▼ 「財団就業規則」や「財団給与規定」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。</p>	<p>適切な人員配置を行うとともに、効果的かつ効率的な施設運営を行い、サービスの維持確保に繋げることができた。</p> <p>研修等に積極的に参加し、職員の専門性の向上、技術の向上を図り、プラネタリウム解説や実演等で活かした。</p> <p>各種法令を遵守し、快適な職場環境を維持するよう努めた。</p>	<p>管理運営組織が確立されており、評価する。今後も、より一層充実した市民サービスの向上に努めること。</p> <p>本市の科学博物館であるため、今後も専門性・技術の更なる向上に努めること。</p>								
<p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <p>▼ ネットワーク環境の整備により各部署間での迅速かつ正確な情報管理を行った。</p> <p>▼ 日常により、事故防止に努めるとともに、マニュアルにより、事故発生時の迅速かつ適切な対応をし、事故原因についても迅速に改善、再発防止を心がけた。</p>	<p>これまでの運営経験で培われたノウハウを活かし、管理水準の維持向上につなげた。</p>	<p>管理水準の維持向上に向け適切に取り組んでおり、評価するが、改めて事故防止について見直す機会を設けるよう努めること。</p>								
<p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理（業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認）</p> <p>▼ 電気技術等専門的な技術・資格を要する施設設備の保守管理を中心に、複数の業務を集約させ、再委託した。また、施設維持のための保守についても、専門職員による業務遂行のため再委託した。</p>	<p>施設の維持管理および展示物の保守管理等を同一業者に委託することで、経費の縮減および業務の効率化を図ることができた。</p>	<p>経費縮減及び効率化が図られており、評価する。引き続き指定管理者としての更なる工夫に期待する。</p>								
<p>▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整（運営協議会等の開催）</p> <p>▼ 運営協議会の開催状況は下表のとおり</p>										
<table border="1" data-bbox="422 1534 1005 1915"> <thead> <tr> <th>開催回</th> <th>協議・報告内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回 9月8日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年4～7月までの事業報告 リニューアル後のプラネタリウムの状況報告 平成28年8月以降の主な事業予定 その他 </td> </tr> <tr> <td>第2回 12月16日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年8月～11月までの事業報告 平成28年12月～平成29年3月の主な事業紹介 平成29年度の事業計画について意見交換 </td> </tr> <tr> <td>第3回 3月1日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 平成28年12月～平成29年2月までの事業報告 平成29年度の事業計画について（概要） その他、今後の事業についての意見交換 </td> </tr> </tbody> </table> <p><協議会メンバー></p> <p>北海道情報大学経営情報学部システム情報学科教授、札幌市立新琴似小学校校長、札幌市立山鼻中学校校長、札幌市青少年育成委員会青葉地区会長、札幌市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課長、札幌市青少年科学館館長</p>	開催回	協議・報告内容	第1回 9月8日	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年4～7月までの事業報告 リニューアル後のプラネタリウムの状況報告 平成28年8月以降の主な事業予定 その他 	第2回 12月16日	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年8月～11月までの事業報告 平成28年12月～平成29年3月の主な事業紹介 平成29年度の事業計画について意見交換 	第3回 3月1日	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年12月～平成29年2月までの事業報告 平成29年度の事業計画について（概要） その他、今後の事業についての意見交換 	<p>学校関係者や学識経験者から当館事業の運営についてアドバイスをいただき、以後の事業運営に活用することができた。</p>	<p>学校関係者や外部有識者等の助言を施設の運営に反映するよう努めており評価するが、反映した箇所については一般利用者への周知も図ること。</p>
開催回	協議・報告内容									
第1回 9月8日	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年4～7月までの事業報告 リニューアル後のプラネタリウムの状況報告 平成28年8月以降の主な事業予定 その他 									
第2回 12月16日	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年8月～11月までの事業報告 平成28年12月～平成29年3月の主な事業紹介 平成29年度の事業計画について意見交換 									
第3回 3月1日	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年12月～平成29年2月までの事業報告 平成29年度の事業計画について（概要） その他、今後の事業についての意見交換 									

▼ 学校連絡会の開催状況は下表のとおり

開催日	協議・報告内容
小学校 3月10日	・平成28年度の事業報告及び平成29年度の事業計画について ・情報、意見交換
中学校 3月16日・17日	・平成28年度の事業報告及び平成29年度の事業計画について ・情報、意見交換
<協議会メンバー> ・ 小学校連絡会 新琴似小学校校長・大倉山小学校校長・中沼小学校校長・札幌市青少年科学館 ・ 中学校連絡会 丘珠中学校校長・羊丘中学校校長・中島中学校校長・札幌市青少年科学館	

▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入し、適正に対応できた。

▼ 流動性や利回り等に配慮し、金融機関及び金融商品の安全性に一層留意した対応を行っている。また、試算の健全性確保を図るため、「資産管理運用方針」等を定め、遵守している。

▼ 現金等の取扱いを適正に行うため、「経理面で不正防止対策について」に則り、事故・不祥事を未然に防ぐ取組みを行っている。

▼ 現金等の取扱いについて「小口現金取扱要領」を定め、適正に行った。

▽ 要望・苦情対応

▼ 要望・苦情対応について報告書を作成し、職員に周知している。

▼ 全ての職員が常時的確な対応ができるように、情報の蓄積を行い、対応方法等の情報の共有化を図ることで、迅速な対応に結び付けている。

▼ 子どもたちの意見・要望を聞き、運営の参考にする「子ども科学会議」でいただいた意見・提案について、事務室内に掲示し情報の共有に努めた。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)

▼ 職員の接遇や施設の利用環境、事業に関する満足度を総合的に伺う「利用者アンケート」を逐次実施し、利用者の生の声を事業運営等に活かしている。

小中学校関係者から授業へつながる科学館利用について意見・アドバイスをいただくことができた。また、児童、生徒のみならず、教員向けの講座等を多く実施してほしいとの声をいただいている。

小中学校からの意見やアドバイスは率直に受け止め、引き続き学校教育との連携強化に努めること。

資金管理、現金等の取扱いについては、取扱要領等に則り、管理体制を整備することで、重大な事故を起こすことなく、適正に管理することができた。

適切に取り組みされており、評価する。今後も適切な財務管理が行われるよう、職員の意識啓発や職員間のチェックを怠らず努めること。

規約の周知徹底を図り、事故なく適正に管理することができた。

要望・苦情については、報告書で残すとともに、回答についても素早い対応をすることができた。

苦情等については、逐次報告があり、適切な処理が行われている。なお、オンブズマンによる調査等が実施され判断が確定した際には、指摘に基づく対応を検討し、実施すること。

アンケート結果は各項目について「とてもよかった・よかった」が9割以上であり、利用者にとって満足度が高かったことがうかがえる。

結果に満足することなく、市民から寄せられる声には常に耳を傾け、今後とも意見要望を取り入れた対応をするよう努めること。

<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>▼ 財団諸規則の見直しや、ハラスメント相談窓口を設置するなどし、適正な労働環境の確保に努めている。</p> <p>▼ 「財団就業規則」や「財団給与規定」に基づく勤務条件のもとで、適正な労働環境の確保に努めている。法定労働時間を超えての労働については、36協定を労使で締結し、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランス取組企業認証を受けており、職員のハラスメント防止研修の実施、育児休業の取得促進など雇用環境の向上に努めた。</p>	<p>関係法令を遵守し、雇用環境の向上に努めた。</p> <p>社労士に委託し、相談窓口の設置や労働環境及び諸規則についての相談を行い、職員の労働環境の改善に繋げた。ハラスメント防止研修を全職員対象に実施し、職員の意識の向上に努め</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 法令遵守に努め、適切な管理が行われており評価するが、引き続き職員の働きやすい環境をつくるよう尽力するとともに、職員の声にも常に耳を傾けること。 </td> </tr> </table>	A	B	C	D	法令遵守に努め、適切な管理が行われており評価するが、引き続き職員の働きやすい環境をつくるよう尽力するとともに、職員の声にも常に耳を傾けること。											
A	B	C	D																
法令遵守に努め、適切な管理が行われており評価するが、引き続き職員の働きやすい環境をつくるよう尽力するとともに、職員の声にも常に耳を傾けること。																			
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <p>▼ 災害時の対応について、マニュアルに基づき、火災避難誘導要領、自衛消防組織編成、役割分担等を作成し、利用者の安全確保に努めている。</p> <p>▼ 利用者を安全・円滑に避難誘導させることができるよう、無線機を備え、新たな避難要領を作成した。</p> <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <p>▼ 清掃、警備、保守点検について仕様書に基づき、適切に実施している。なお、設備保守、展示物保守、清掃、警備、エレベータ、エスカレータ保守、電話交換機保守、そ族害虫駆除、除雪、樹木芝生管理、自動扉、消防設備、吸収式冷凍機等、特殊展示物(スーパードリームライド、人工降雪装置等)については、第三者委託により実施している。</p> <p>▼ 躯体の老朽化に伴い、雨漏りなどが発生しているため、修繕について札幌市教育委員会と調整を図った。</p> <p>▼ 電気関係の設備(変電器等)の老朽化・受変電設備改修やインパーター設置等により、電気使用に関して変化があったことに伴い、古い機器類に不具合が発生し、設備管理に支障をきたしているため、札幌市教育委員会と調整を図り改善していきたい。</p> <p>▼ 屋外タイル等躯体以外の老朽化に伴い、破損箇所が発生しているため、札幌市教育委員会と調整を図り改善していきたい。</p> <p>▽ 防災</p> <p>▼ 防災計画を策定するとともに、年度内2回の防災訓練を実施し、避難体制の確認に努めた。</p>	<p>各種災害に関する避難マニュアルを作成し、定期的な防災訓練を行うことで利用者の安全確保に努めることができた。</p> <p>業務の効率化、施設・展示物の老朽化への対応として、教育委員会と連携し、計画的に対応することができた。</p> <p>火災や地震等様々な災害を想定した訓練を実施することにより、災害発生時の対応力の向上を図ることができた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 適切に取り組みされており、評価する。また、北朝鮮におけるJアラートの対策についても、迅速に対応しており、評価する。 </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 適切に取り組みされており、評価する。施設等の老朽化に伴う修繕においては、利用者のみならず、周辺住民にも多大な影響を与えることから、今後も教育委員会との連絡を密にして取り組むこと。 </td> </tr> <tr> <td colspan="4"> 適切に取り組みされており評価する。なお、公の施設であることを忘れずに今後も万全の準備をするよう努めること </td> </tr> </table>	A	B	C	D	適切に取り組みされており、評価する。また、北朝鮮におけるJアラートの対策についても、迅速に対応しており、評価する。				適切に取り組みされており、評価する。施設等の老朽化に伴う修繕においては、利用者のみならず、周辺住民にも多大な影響を与えることから、今後も教育委員会との連絡を密にして取り組むこと。				適切に取り組みされており評価する。なお、公の施設であることを忘れずに今後も万全の準備をするよう努めること			
A	B	C	D																
適切に取り組みされており、評価する。また、北朝鮮におけるJアラートの対策についても、迅速に対応しており、評価する。																			
適切に取り組みされており、評価する。施設等の老朽化に伴う修繕においては、利用者のみならず、周辺住民にも多大な影響を与えることから、今後も教育委員会との連絡を密にして取り組むこと。																			
適切に取り組みされており評価する。なお、公の施設であることを忘れずに今後も万全の準備をするよう努めること																			

(4)事業の計画・実施業務	▽ 科学及び科学技術に関する資料及び装置の展示	A B C D	
	<p>▼ 施設内にある常設展示物を有効に活用し、実演等を交え、子どもから大人までの幅広い層の来館者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるよう努めている。各展示物は「見て、触れて、考える」をコンセプトとしており、来館者が体験的に学ぶことを基本としているが、より理解を深めていただくために、解説パネルなどを増設した。また、職員による展示ガイドツアーや展示物を巡るラリーを試行的に行なった。</p> <p>▼ 小中学校の長期休暇等に、常設展示だけでは体験できない内容の展示や実演を交えた特別展等を開催した。 ・ゴールデンウィーク「親子で楽しめる科学館」 7日間開催(来館者19,541名) (主な取組み)工作や知育玩具の体験、ものづくりに関する映像番組の上映など</p> <p>・夏休み「大発見！北海道恐竜展【ハドロサウルス類の進化の謎に挑戦】」 30日間開催(来館者54,257名) (共催:北海道博物館、むかわ町穂別博物館) (主な取組み)講演会「恐竜博士になりたい」小林快次氏など</p> <p>・冬休み「小さな世界をみてみたい！～ワクワク・ドキドキ、ミクロの世界～」 18日間開催(来館者14,608名) (協力:北海道大学総合博物館、資生堂、日立ハイテクノロジーなど) (主な取組み)ワークショップ「光る細胞カプセルをつくろう！」 北海道大学CoSTEP</p> <p>・春休み「春だ！わっしょい！科学館まつり2017」 16日間開催(来館者27,176名) (主な取組み)縁日の雰囲気の中、14の科学体験ブースを設けた。</p> <p>▼ 最先端の研究や科学技術を学ぶ講演会を実施した。 「山崎直子宇宙飛行士特別講演会～宇宙の仕事をしてみたい！～」 山崎直子氏 (参加者155名) 「自然を探る～陸生プランクトンの分布を例として～」守屋開氏 (参加者61名) ▼ 2階「学習コーナー」に、科学及び科学技術に関する資料・図書を置き、学校の総合学習をはじめとする学習の補助としている。</p>	<p>来館者とのコミュニケーションに重点を置き、広く市民に科学や科学技術の知識を提供することができた。</p> <p>大学、博物館、企業など、様々な施設や団体と連携・協力し、展示内容の充実を図ることができた。</p> <p>山崎直子名誉館長の講話を実施することで、当館のPRと新たな利用者の開拓につながることができた。</p>	<p>来館者とのコミュニケーションに努め、科学等の知識の向上に向けた取組を実施しており、評価する。また、特別展をはじめとして、様々な世代に向けた事業を実施しており、今後も引き続き、市民ニーズを捉えた事業や特別展の企画実施に期待する。</p>
	<p>▽ 科学に関する実習、実験及び講座等の開催</p> <p>▼ 色々な現象の観察や体験を通して、子どもから大人までの幅広い層の参加者が、楽しみながら科学の不思議や素晴らしさに触れることができるような実験・実習を実施した。</p> <p>・工作教室 「ものをつくる喜び」を喚起し、科学的な視点を養いことを目的とした工作教室を開催した。 小中学生向け 168回 参加者数1,481名 夏休み 14日間56回 参加者数880名 冬休み 9日間36回 参加者数708名 土曜 3回27組 参加者数82名</p> <p>・サイエンスショー 身近な材料を使って、科学現象や原理を楽しくわかりやすく伝えるショーを実施した。 767回 参加者数19,299名 「化学の不思議！この色、へんか？」ほか</p> <p>・実験教室 子どもたちの科学への興味・関心を高めるため、小中学生向けの実験教室を開催した 日曜実験室 66回753名 「顕微鏡で調べてみよう あなたも、生き物マイスター！」ほか</p>	<p>サイエンスショーや様々な実演を行い、利用者サービスの維持向上を図ることができた。</p> <p>主に小学生に対して、ものづくりへの興味・関心を高めることができた。</p> <p>3か月ごとにプログラムを変更することにより、身近な科学現象を取り上げ、子どもから大人まで楽しみながら学べる実演を行うことができた。</p> <p>4か月ごとのプログラム変更や、多くの分野の内容を取り扱うことにより、理科の面白さを伝えることができた。</p>	<p>科学を楽しめる実験実習を実施しており、評価する。今後も、青少年を中心に、幅広い年代に対し科学への興味・関心を高めるような事業の実施に取り組むこと。</p>

<p>・ちびっこワークショップ 就学前の児童と保護者向け実験・工作教室を開催した。 7回1,221名 「カラーペンのへんしん☆おえかき」など</p> <p>・移動科学館 小学校5年生 9校538名 「電気と磁石は親戚!？」</p> <p>・幼児のための出前サイエンス 幼児の科学の芽を育むため、幼稚園等に出向いてサイエンスショーを行った。 幼稚園6園 703名 「サイエンスマジシャンのふしぎなマジック」ほか 公共施設3回 4,135名 「青少年のための科学の祭典in北海道2016」ほか</p> <p>▼ サイエンジャー科学教室 主に土曜日と夏・冬休み期間中に小・中学生を対象に、テーマや実演方法を工夫した工作・実験教室などを実施した。 17回 受講者307名 「ROBOLABプログラミング教室」(日本IBM)、 「手づくり乾電池教室」(一社電池工業会)ほか</p> <p>▼ 親子科学教室 親子で参加する実験・工作教室を実施し、来館やイベント参加へのきっかけづくりとした。 4回45組 受講者87名 「トライサイエンス～探査機を宇宙に送ろう～」(日本IBM)ほか</p> <p>▼ 中高生による科学教室 中学校・高校の科学部などの生徒が研究の成果を発表し、互いに交流する場を提供するとともに、一般参加者も参加・体験できる科学教室を実施した。 12月3日(土) 参加校6校 参加者47名 16テーマ</p> <p>▼ 大学生による科学教室 大学生の研究実践の場を提供するとともに、子どもたちの科学への興味関心を高めるため、大学生が小中高生を指導する科学教室を実施した。 3回 受講者48名 「知ろう! センサの仕組み」(札幌市立大学)ほか</p>	<p>近年増加している当館においても未就学児対象の体験型イベントを実施することができた。</p> <p>各小学校に出向き、より専門的な実験を行うことで、子どもたちの科学に対する興味関心を高めることができた。</p> <p>就学前の子どもたちに対し、科学のおもしろさ、楽しさを伝えることができた。</p> <p>企業や他団体との連携により、より専門的、体験的な教室を実施することができた。また、そのことにより、それぞれの職員の資質向上を図ることができた。</p> <p>親子で科学について学べる機会を提供し、親子の触れ合いと科学の魅力を伝えることができた。また、企業と連携した科学教室を実施できた。</p> <p>中高生に研究成果の発表の場を提供することにより、交流の機会を増やし、活動の活発化を図ることができた。</p> <p>新たに札幌市立大学が参加するなど大学との連携が推進できた。</p>	<p>専門性の高い事業の実施は、小中学生のみならず一般の方からの要望も強いことから、更なる事業拡充を期待したい。 また、事業実施したことで得られた知識や経験を、今後の事業に生かし拡大していくことを期待する。</p>
---	---	---

<p>▽ プラネタリウム及び天文台による天文知識の普及啓発</p> <p>▼ 仕様書に基づき、1日4～6回星空の生解説を含めた通常投影を行うとともに、効果的な時期に興味深いテーマの投影を実施することで、市民への天文知識・興味の普及啓発に努めた。また、未就学児など小さなお子さまでも星に興味をもってもらえるよう、幼児向けのオリジナル番組の投影回を設定した。 通常投影 1,482回 観覧者120,549名 特別投影 9回 観覧者1,423名 イブニングプラネタリウム 24回 観覧者3,000名</p> <p>▼ キッズプラネタリウム 未就学児と保護者を対象に、歌や動物探しを取り入れた特別なプラネタリウムを実施した 4回 観覧者326名(平日)</p> <p>▼ 一般投影時に用いる小学生向けプラネタリウムオート番組「おかしなお菓子なあまのがわ」の制作及び既製番組「銀河鉄道の夜」を購入し、投影した。</p> <p>▼ 学習投影 小中学校を対象に、理科授業の一環として、学校の教室では表現しづらい天体の動き等を学習するプラネタリウム投影を行った。 269校 132回 観覧者19,126名(市外含む)</p> <p>▼ 移動プラネタリウム 地理的・時間的に来館困難な小学校などへ出向き、学習投影を行った。また、幼稚園やイベントなどで星空の投影と解説を行った。 ・幼稚園8園16回 観覧者490名 ・小学校11校26回 観覧者775名 ・中学校2校10回 観覧者320名</p> <p>▼ 移動プラネタリウムを用いた学習投影シナリオの作成 小学校4年生・6年生・中学校3年生の学習投影について、北海道小学校理科研究会及び北海道中学校理科教育研究会に協力をいただき、シナリオ作成のための会議を主催した。 小学校4年生4回 小学校6年生4回 中学校3年生6回</p> <p>▼ 札幌北高等学校定時制4学年向け夜間プラネタリウム投影と天文講座 定時制高等学校の生徒に対し、閉館後の夜間に、宇宙や天文に関する学習機会を提供した。 10月26日(水) 観覧者36名</p> <p>▼ 字幕付きプラネタリウム 耳の不自由な人のために、字幕付き投影を行った。 4回 観覧者197名</p> <p>▼ プラネタリウム祭り プラネタリウムの可能性や認知度を高めるとともにその魅力を広く市民に伝えるため、絵本の読み聞かせなど、科学以外のジャンルと組合せた内容のイベントを実施した。 4日間 観覧者3,109名</p>	<p>左記の事業等を実施したことにより、リニューアルしたプラネタリウムの利用については期待以上の効果をあげることができた。</p> <p>キッズプラネタリウムは親子のふれあいを高めるとともに閑散期の利用者開拓ができた。</p> <p>職員が作成したオリジナル番組は、当館ならではの特色を持つ番組となった。</p> <p>市内小学校の風景を映し出すスカイラインや新しくなったプラネタリウムの性能を十分に活用したことで、児童生徒の理解度を高めることができた。</p> <p>来館困難な子どもたちの学習の支援ができた。</p> <p>学習内容ごとにコンテンツ化し、各学校の特性に柔軟に対応できるシナリオを作ることができた。</p> <p>日中利用することが困難な定時制高校の生徒に対し、天文に関する学習機会を提供することができた。</p> <p>字幕付きについては、耳の不自由な方だけではなく、健常者にも楽しんでいただくことができた。</p> <p>各企画ともにアンケートは好評で、それぞれの施設との新たな事業展開も見込まれ、様々な世代に楽しんでいただくことができた。</p>	<p>プラネタリウムリニューアルだけで満足することなく、利用者維持に向けた取組も併せて実施しており、評価する。</p> <p>閑散期への対応は今後も重要な取組であるため、引き続き新規の利用者開拓に向け尽力すること。</p> <p>引き続き他館との差別化に向けた取組に期待する。</p> <p>アウトリーチ活動については、実施面で限界があるものの、事業としては市民の満足度が大変高い事業であるため、引き続き可能な範囲での実施を期待する。</p> <p>幅広い利用者に満足度の高い事業については、今後も継続した取組を期待する。</p>
---	---	---

<p>▼ SNOW MIKU 2017 × プラネタリウム 札幌市が後援する「SNOW MIKU 2017」の時期に合わせ、当該イベントのキャラクター「雪ミク」の映像コンテンツを含む特別プラネタリウムを実施した。 23回 観覧者2,148名</p>	<p>「雪ミク」の活用によって、例年の2倍の来場者があり、普段は人数が落ち込む閑散期に新規の利用者を呼び込むことができた。</p>	<p>閑散期への対応の取組は今後も重要なテーマである。左記の取組は新たな利用者層の呼び込みにつながっており、大変評価する。</p>
<p>▼ 観望会 市内各地域の団体からの依頼により、移動天文車と職員・天文指導員を派遣し、観望会を行った。 46回 観覧者3,436名 6月1日(水)～1月29日(日) 星観緑地・もみじの森小学校など</p>	<p>受け入れ方法の変更、受け入れ日の拡大により昨年度よりも多くの申し込みを得ることができた。</p>	<p>申込に柔軟に対応する対応を実施し、開催回数も増えており、大変評価する。引き続きの対応に期待する。</p>
<p>▼ 札幌市天文台 都心近接の立地条件を活かして、天体観望会の機会(昼・夜)を提供した。 午前304回 観覧者8,867名 午後259回 観覧者7,201名 夜間77回 観覧者2,670名</p>	<p>職員による広報の工夫により、過去最高の来台者数であった昨年度をさらに大きく上回ることができた。</p>	<p>天文台においては、職員の工夫した取組により、爆発的に来台者が増加しており、大変評価できる。</p>
<p>▼ 宇宙・天文についての興味関心を高めるため、第一線で活躍する専門家を招いて講座を実施した。 3講演 観覧者319名 6月18日(土)「佐治晴夫先生講演会～ダークユニバース」 佐治晴夫氏 9月10日(土)「はやぶさ2からCAMUIハイブリッドロケットまで」 寺蘭淳也氏・永田晴紀氏 3月25日(土)「民間月面探査HAKUTOの挑戦」 秋元衆平氏・友田孝久氏</p>	<p>実施回数の増加や新しいプラネタリウムの活用などにより、内容の充実を図ることができた。</p>	<p>著名な研究者を招いた専門性の高い事業は、子どもだけではなく大人も興味・関心が高く好評である。引き続き、市民に専門性の高い事業を提供していくことを期待する。</p>
<p>▼ 親子・大人対象の天文教室を継続して実施することにより、科学館利用者の年齢層の拡大を図った。 親子天文教室 5回131組 受講者302名 やさしく学ぶ星空教室 2回全6日 受講者37名 詳しく学ぶ天文講座 2回全8日 受講者61名</p>	<p>自ら作った望遠鏡で天体観測を行うことで、感動しながら天体の知識を得ることができた。</p>	
<p>▼ 天文指導員の養成 天文に興味を持っている又は指導する立場を目指している市民等を対象として、天文普及活動を担う人材を育成している。 登録者数33名</p>	<p>継続登録者の養成を目的として、研修により専門性の向上を図ることができた。</p>	
<p>▼ 屋間の星を見よう 利用者からの意見を反映した、科学館屋上の天文台での屋間の観望会を実施した。 47回 観覧者636名</p>	<p>屋間でも星が見られることの驚きを体験してもらい、天体に関する興味関心を高めることができた。</p>	

▽ 展示資料等に関する調査研究及び関係機関等との協力

▼ 科学系博物館等と連携し、協会等が主催する研修への参加や各種会合へ出席することで、現状の把握、今後の展望、対策など幅広く情報交換した。

- ・平成28年度北海道青少年科学館連絡連絡協議会総会及び第1回館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会)
- ・道央地区博物館等連絡協議会総会・第1回研修会(道央地区博物館等連絡協議会)
- ・全道社会教育主事等研修会(北海道教育委員会)
- ・平成28年度全国プラネタリウム大会・釧路2016(日本プラネタリウム協議会)
- ・平成28年度第1回全国科学博物館協議会理事会・総会(全国科学博物館協議会)
- ・日本ミュージアム・マネージメント学会 第21回大会(日本ミュージアム・マネージメント学会)
- ・ミュージアムキッズ！全国フェア(こどもひかりプロジェクト)
- ・日本公開天文台協会第11回全国大会(日本公開天文台協会)
- ・第25回指定都市科学館連絡会議(指定都市科学館会議)
- ・平成28年度博物館長会議(国立教育政策研究所)
- ・平成28年度第2回北海道青少年科学館連絡協議会館長会議(北海道青少年科学館連絡協議会)
- ・第5回サイエンスフェアリー(公益財団法人静岡市文化振興財団)
- ・第55回北海道中学校理科教育研究大会釧路大会等(北海道中学校理科教育研究会)
- ・JPA北海道プラネタリウムネットワーク研修会in札幌(日本プラネタリウム協議会)
- ・北海道小学校理科研究会 第2回札幌支部理科教育研究大会(北海道小学校理科研究会)
- ・第52回北海道青少年科学館職員研修会(北海道青少年科学館連絡協議会)
- ・第24回日立サイエンスショーフェスティバル(公益財団法人日立市民科学文化財団)
- ・全国科学館連携協議会 平成28年度第2回国内研修(全国科学館連携協議会)
- ・全国科学博物館協議会第2回理事会・総会・研究発表会(全国科学博物館協議会)
- ・第32回北方圏国際シンポジウム教育部門～社会施設の部～(北海道立オホーツク流水科学センター)

▼ 夏・冬休みで特別展を実施する中で、各種関係機関に展示物の貸与等で協力をいただいた。

▼ 各種関係機関と連携し、以下の取組みを行なった。

- その他
 - ・親子メカトロ教室((一社)日本機会学会)
 - ・みんなのプログラミング教室((一社)みんなのコード北海道支部)
 - ・夢未来宇宙学校から目指せ未来の宇宙科学者！(札幌商工会議所)
 - ・第2回マイコンレーサー北海道大会(北海道ロボット教育推進会)
 - ・宇宙の日 作文・絵画コンテスト((一財)日本宇宙フォーラム)
 - ・ジオ・フェスティバル in Sapporo(同実行委員会)
 - ・親子工場見学会((一社)セメント協会) など

- 社会教育施設等と連携し、以下の取組みを行なった。
 - ・北海道博物館のサテライト展示(アンモナイトなど)
 - ・「北広島マンモス」の展示(北広島エコミュージアムセンター)
 - ・サイエンスZOO(動物園科学の日)(札幌市円山動物園)
 - ・かるちやるnetへの参加(事務局:北海道博物館)
 - ・CISEネットワークへの参加(事務局:北海道大学総合博物館)
 - ・まちなかコンサート～厚別区～(札幌文化芸術交流センター) など

- 学校教育機関等と連携し、以下の取組みを行なった。
 - ・札幌市教育センターと連携した「教員研修」実施 5回141名
 - ・実験実習の貸し出し 18団体45セット
 - ・職場体験の受入れ 13校42名
 - ・北海道科学英語発表会(札幌啓成高校ほか) 参加校16校 295名
 - ・札幌啓成高校「啓成SSH in 光の広場」への協力
 - ・札幌市創意くふう作品展(札幌市創意工夫教育研究会ほか)
 - ・北海道青少年科学技術振興作品展(北海道発明工夫教育連携ほか)
 - ・「教員のための博物館の日in 札幌」(北海道開拓の村ほか)への参加 など

関係機関が主催する研修へ参加し、積極的な情報交換を行うことにより、職員の資質向上につなげることができた。

関係機関との連携強化に取り組み職員の資質向上に努め、情報の蓄積を怠ることなく続けており、評価する。今後も科学普及活動に向けた事業の実施のために積極的な情報交換・研修等を行うことを期待する。

各団体の特性を生かした柔軟な取組みを進め、関係機関とのネットワークづくりを進めるとともに、館内の展示機能、学習機会の充実を図ることができた。

各団体の特性を生かした取組を進め、ネットワーク作りを進めており、評価する。引き続きネットワーク作りを推進するとともに幅広い世代への学習機会の充実を期待する。

各施設の特性を生かした柔軟な取組みを進め、社会教育施設とのネットワークづくりを進めるとともに、館内の展示機能、学習機会の充実を図ることができた。

理科教育を重点的に行っている高校(スーパーサイエンスハイスクール(S SH)指定校)との連携を進め、高校への支援体制を高めることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ● 高等教育機関等と連携し、以下の取組みを行なった。 <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市立大学との連携 <ul style="list-style-type: none"> … 地域プロジェクト演習の受入れ … 学生の卒業論文への協力(ワークショップの実施など) ・北海道大学大学院理学院との連携 <ul style="list-style-type: none"> … 宇宙開発機器の展示や講演会 … 大学院生の調査研究への協力(電子工作教室の実施) ・博物館実習の受入れ 3校4名 など ● 地域との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・新さっぽろ冬まつり(同実行委員会) ・あつべつ区民協議会イベントへの参加・協力 など ▼ 2階「学習コーナー」において、来館者が科学に関する学習ができるよう、毎月テーマ別に資料を購入・展示した。 ▼ 市民の天文への興味・関心を高めるため、季節の星空情報や天文にまつわる話を掲載した天文情報リーフレットを隔月発行した。 6回 年計54,000部 ▼ 北海道新聞生活情報版「さっぽろ10区(トーク)」への原稿執筆「今週の星空」27回 ▽ その他科学館等の設置目的を達成するために必要な業務 <ul style="list-style-type: none"> ▼ 科学や宇宙・天文に関する疑問や質問に可能な限り回答し、市民の自主学習を支援している。 	<p>大学とのネットワークづくりを進めるとともに、各大学の特性を生かした学習機会の充実を図ることができた。</p> <p>地域に根差した博物館として、地域との連携は積極的に進めることができた。</p> <p>広く情報の発信に努めることができた。</p> <p>その時期にあったタイムリーな話題を提供でき、多くの市民に星空への興味・関心を高めることができた。</p> <p>解説や質問への回答を丁寧に行うことにより、市民の自主学習を図ることができた。</p>																																					
<p>(5)施設利用に関する業務</p>	<p>▽ 利用件数等 (人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H27実績</th> <th>H28計画</th> <th>H28実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>展示室</td> <td>247,789</td> <td>258,216</td> <td>255,704</td> </tr> <tr> <td>プラネタリウム</td> <td>87,897</td> <td>127,663</td> <td>142,675</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>335,686</td> <td>385,879</td> <td>398,379</td> </tr> <tr style="background-color: yellow;"> <td>観覧料収入金額(千円)</td> <td>71,136</td> <td>70,700</td> <td>89,110</td> </tr> </tbody> </table> <p>(人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tbody> <tr> <td>事業参加者数</td> <td>61,182</td> <td>—</td> <td>61,844</td> </tr> <tr style="background-color: yellow;"> <td>事業費収入金額(千円)</td> <td>1,935</td> <td>2,568</td> <td>3,034</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 不承認 0件、取消し 0件、減免 40,161件、還付 0件</p>		H27実績	H28計画	H28実績	展示室	247,789	258,216	255,704	プラネタリウム	87,897	127,663	142,675	総計	335,686	385,879	398,379	観覧料収入金額(千円)	71,136	70,700	89,110	事業参加者数	61,182	—	61,844	事業費収入金額(千円)	1,935	2,568	3,034		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr style="background-color: #f0f0f0;"> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">計画以上の来館者の確保につながっており、プラネタリウムのリニューアル効果に加え、様々な新しい取組の成果が出ており、評価する。</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	計画以上の来館者の確保につながっており、プラネタリウムのリニューアル効果に加え、様々な新しい取組の成果が出ており、評価する。			
	H27実績	H28計画	H28実績																																				
展示室	247,789	258,216	255,704																																				
プラネタリウム	87,897	127,663	142,675																																				
総計	335,686	385,879	398,379																																				
観覧料収入金額(千円)	71,136	70,700	89,110																																				
事業参加者数	61,182	—	61,844																																				
事業費収入金額(千円)	1,935	2,568	3,034																																				
A	B	C	D																																				
計画以上の来館者の確保につながっており、プラネタリウムのリニューアル効果に加え、様々な新しい取組の成果が出ており、評価する。																																							

	<p>▽ 利用促進の取組</p> <p>▼ 夏冬春の小学校などの長期休み期間以外でも、企画展を開催したり、閑散期に家族で楽しめるイベント(サイエンスショースペシャル等)を開催した。また、他団体との連携事業(SSH・札幌文化芸術交流センター等)により新しい来館者層の掘り起こしに努めた。 さらに、札幌市天文台も活発な広報活動や地域イベントに協力するなどした。</p> <p>▼ リピーターの拡大を図るため、小中学生を対象に会員を募り、メールマガジンでイベントの案内を行うほか、会員を対象としたイベントを実施した。また、Sciキッズ会員の中から希望者を募り、更に科学の学びが深められるような科学教室やクラブ活動などを行った。 ・ Sciキッズ会員 76名(新規39名、更新37名)</p>	<p>工夫した各種実験教室や特別展の実施、リニューアルしたプラネタリウムの活用、広報の充実により、利用促進を図ることができた。</p>									
(6)付随業務	<p>▽ 広報業務</p> <p>▼ ホームページに「最新の科学トピックス」や「裏側レポート」、「イベント情報」を掲載するなど、科学館の魅力の向上に努めた。</p> <p>▼ 広報媒体を使い分け、大人や子どもなどに対して効率的かつ効果的に情報提供を行った。</p> <p>▼ マスコミに対し、積極的に情報提供を行った。</p> <p>▽ 引継ぎ業務</p> <p>▼ 前年から継続指定のため、引継ぎ業務なし</p>	<p>ホームページ上で科学館の事業紹介や結果報告などわかりやすく伝えることができた。 また、前年度に比べ約30,000件増の337,667件となった。</p> <p>プレスリリース等を積極的に行い、当館の事業について広く市民に知ってもらうことができた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>今後も事業の紹介や結果を含め、幅広い世代の方にわかりやすく伝え、利用者増につながるような工夫した取組を期待する。</p> </td> </tr> </table>	A	B	C	D	<p>今後も事業の紹介や結果を含め、幅広い世代の方にわかりやすく伝え、利用者増につながるような工夫した取組を期待する。</p>			
A	B	C	D								
<p>今後も事業の紹介や結果を含め、幅広い世代の方にわかりやすく伝え、利用者増につながるような工夫した取組を期待する。</p>											
2 自主事業その他											
	<p>▽ 自主事業</p> <p>▼ 自動販売機事業 売上高6,163,731円</p> <p>▼ 売店事業 売上高7,303,760円</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <p>▼ 物品・印刷物・消耗品等の調達については、特殊なものを除き、札幌市内の企業等に発注し、積極的な活用に努めている。また、業務の再委託について、入札の指名にあたり、業務内容等を踏まえ優先的に札幌市内の企業等を選定している。</p> <p>▼ 物品の購入・印刷物作成などの発注を行う際、その内容・金額等の条件が許す範囲において、社会福祉団体等を活用している。</p> <p>▼ 事業運営において、障害者が利用しやすい環境づくりに取り組んでいる。 ・車椅子の貸し出し ・プラネタリウムでの補聴器貸し出し ・字幕付きプラネタリウムの実施</p>	<p>市内企業等への発注や活用について配慮できている。</p> <p>館内利用や事業実施時に、障害者が利用しやすい環境づくりに取り組むことができています。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td colspan="4"> <p>物品調達等は、引き続き市内企業を活用し取り組むこと。</p> <p>障がいのある方も学ぶことができる工夫がされており、評価する。</p> </td> </tr> </table>	A	B	C	D	<p>物品調達等は、引き続き市内企業を活用し取り組むこと。</p> <p>障がいのある方も学ぶことができる工夫がされており、評価する。</p>			
A	B	C	D								
<p>物品調達等は、引き続き市内企業を活用し取り組むこと。</p> <p>障がいのある方も学ぶことができる工夫がされており、評価する。</p>											

3 利用者の満足度			
▽ 利用者アンケートの結果			
実施方法	夏休み・冬休みの特別展期間の中から数日間、館内にアンケート記載場所を設置し、観覧者に対し回答してもらうよう声掛けをする形式で実施した。 集計数：457件	アンケート結果から、事業、接遇ともに「とてもよかった」、「よかった」との評価が90%以上を占め、概ね満足をいただくことができた。	A B C D
結果概要	<p>科学館の感想 とてもよかった(61.2%) / よかった(35.3%) / ふつう(3.1%) / あまりよくなかった(0.4%) / よくなかった(0.0%)</p> <p>特別展等の内容の満足度 とてもよかった(64.1%) / よかった(31.9%) / ふつう(3.6%) / あまりよくなかった(0.4%) / よくなかった(0.0%)</p> <p>職員の対応 とてもよかった(65.6%) / よかった(30.1%) / ふつう(4.0%) / あまりよくなかった(0.3%) / よくなかった(0.0%)</p>		各種アンケート結果が良好であり評価する。今後も、高評価を維持できるよう、利用者からの意見・要望に応じていくなど、市民サービスの向上に努めること。
利用者からの意見・要望とその対応	<p>【意見・要望】 混み合っていて、参加できないまま終了した展示があったのが残念(1グループがずっと使用していた)</p> <p>【対応】 スタッフにこの件を周知し、指導した。混み合っても来館者が滞ることがないように、利用者へ声掛けを行うなど対応した。</p>		

4 収支状況			
▽ 収支 (千円)			
項目	H28計画	H28決算	差(決算-計画)
収入	432,155	477,547	45,392
指定管理業務収入	422,055	463,931	41,876
指定管理費	348,787	371,787	23,000
利用料金	70,700	89,110	18,410
その他	2,568	3,034	466
自主事業収入	10,100	13,616	3,516
支出	432,961	445,118	12,157
指定管理業務支出	423,382	434,624	11,242
自主事業支出	9,579	10,494	915
収入-支出	▲ 806	32,429	33,235
利益還元			0
法人税等	35	1,000	965
純利益	-841	31,429	32,270
▽ 説明			
・プラネタリウムのリニューアル効果や閑散期における新しい取組により、利用者数が計画よりも増加し、収入増へとつながった。また、売店商品も特別展等に関連させることにより売上が伸び、増収となった。			
展示室・プラネタリウムともに、計画よりも利用者数が増加し、収入増へとつなげることができた。		A B C D	
		利用料収入においては、計画の約25%増となっており、一般(大人)の利用者が増えていることから、今後も引き続き、市民ニーズを捉えた事業の実施に期待する。	

<確認項目> ※評価項目ではありません。			
▽ 安定経営能力の維持	▼ 等団体の財務状況等は極めて良好であり、安定経営能力は選定時より向上している。	適	不適
▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応	▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応している。	適	不適

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>4月にプラネタリウムがリニューアルオープンし、多くの市民に観覧いただいた。繁忙期は通常より上映の回数を増やすなどの臨時対応を行い、プラネタリウム観覧者は前年度よりも大きく上回ることができた。</p> <p>昨年度改修を行った3階サイエンスホールでは団体利用の小学校を対象にした「学習サイエンスショー」の実施や各種講演会場として有効に活用することができた。</p> <p>特別展では、職員の企画力や専門性と、館のネットワークを活かし、オリジナリティのある内容で展開することができた。</p> <p>札幌市天文台は平成27年度に、来台者が1万人を突破したが、平成28年度は職員の工夫によりさらに多くの来台者に利用いただき、星空観賞の機会を提供することができた。</p>	<p>プラネタリウムがリニューアルして1年が経過し、職員の機器操作等の習熟度は上がっているため、投影内容のさらなる充実を図る。</p> <p>学習投影や学習サイエンスショーなどを中心に、学校からの要望にできるだけ応え、学校教育との連携を図る。</p> <p>また、展示物の適正な維持管理に努め、修繕等については教育委員会と協議を行っていく。実験・実演に関しては、サイエンスショーや日曜実験教室などの通常行っているものに加え、サイエンジャー科学教室など、他施設と連携した事業にも注力し実施する。</p> <p>特別展は引き続き職員の企画力を活かし、オリジナリティのある内容で実施していく。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>プラネタリウムリニューアルに伴い、市民要望に応じて通常時より上映回数を増やした効果が出ており、特に一般利用者(高校生以上)の利用が増え収入増にもつながっている。また、冬の閑散期には、雪ミクのショート番組を上映するなど新しい取組も行っており、これまで科学館を利用したことがない、新しい利用者層の確保につながっていることから、今後も多方面からの利用も含めたプラネタリウムの活用を期待する。</p> <p>また、サイエンスホールにおいても、「学習サイエンスショー」の実施や各種講演会を行い、学校教育との連携や企業や団体との連携も増えてきている。科学原理だけではなく、今後の科学技術を紹介できる札幌の科学館として、各種団体との連携強化を期待する。</p> <p>札幌市天文台については、平成26年以降、爆発的に来台者が増えており、呼び込みや丁寧な説明等により、リピーターの確保にもつながっていることから大変評価する。</p>	<p>学校教育とのさらなる連携強化に向けては、教員などの要望等に沿える対応が必要となるが、人員体制の問題もあるため、それぞれの職員の業務をしっかりと把握したうえで調整が必要である。</p> <p>また、展示物や施設設備については、故障が目立つと市民サービスの低下につながるため、ひとつひとつの展示物の管理を徹底し、優先度を設けた修繕を行っていくこと。なお、その際は、本市と協議も必要になるが、問題があるもの等は、これまでに引き続き、できるだけ事前に伝えること。</p>